

足首の変形・腫れ・痛み

(変形性足関節症)

関節には表面を覆う関節軟骨があり、下肢の関節では荷重での負荷に対するクッションの役割を担っています。その軟骨がすり減り、痛みを生じるようになるのが変形性関節症です。下肢の関節では膝関節や股関節に多く足関節に生じる頻度は少ないですが、足関節に生じた場合を変形性足関節症と言います。



図1

足関節は本来関節の適合性がよく、足関節の軟骨は老化が生じにくい特性もあり、通常はあまり起こりませんが、昔に捻挫をして関節が不安定となっていたり(陳旧性足関節外側靭帯損傷)、足関節周囲の骨折の後遺症として発症することがあります。足首の内側の軟骨がすり減る内側型が多いです(図1)。

本来の関節軟骨によるクッションの作用がなくなるため、歩行時に足首が痛くなったり、関節に水が溜まって腫れたりします。外観上も変形が目立つようになってきます(図2)。



図2

X線検査では、軟骨がすり減っている範囲に応じて病期分類されます(図3)。

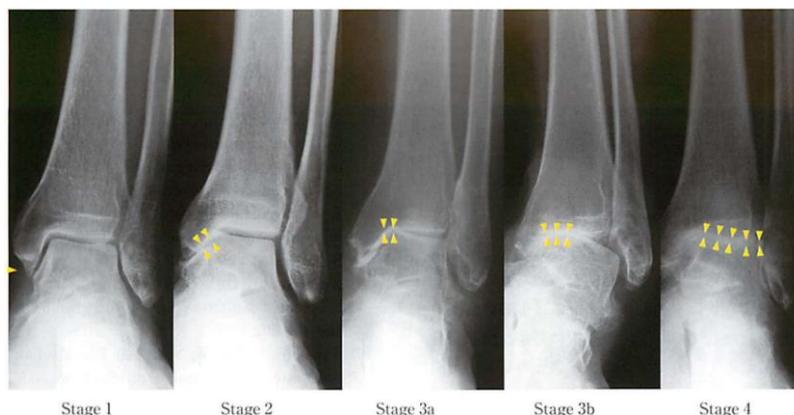


図3

その病期に応じて治療方針が変わりますが、いずれにせよまずは足部・足関節の運動療法、装具療法などの保存療法を行います。それでも痛みが続く場合には手術を行っています。病期や年齢、活動性などを考慮し、骨切り術、関節固定術、人工足関節置換術による治療を選択しています(図 4)。

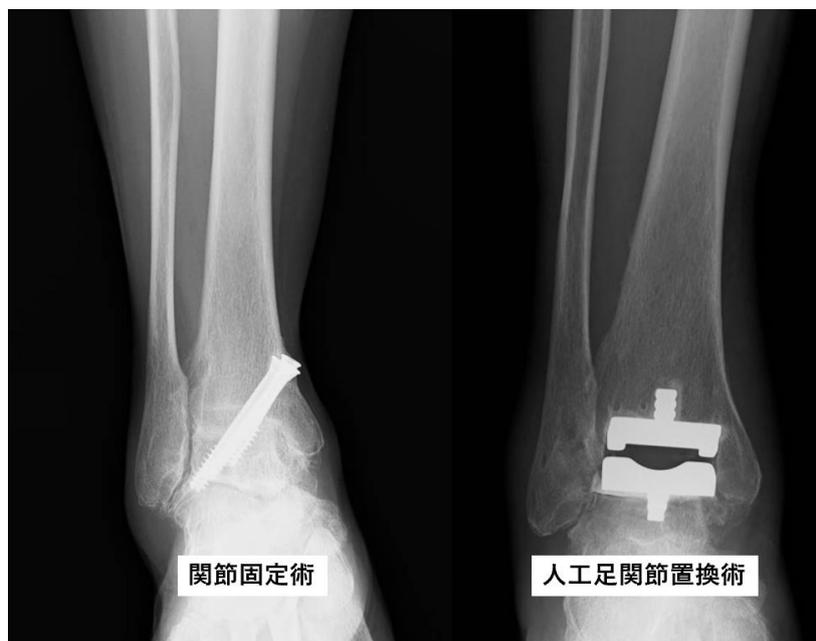


図 4

足首の痛みでお困りの方はご相談ください。

文責 第3 整形外科部長 城戸 聡